

小学校における地域学習の単元デザイン ーキッズマート学習を通してー

学籍番号 209315

氏名 河合 基弘

主指導教員 鈴木 真由子

副指導教員 松永 尚子

1. はじめに

平成29年に、学習指導要領が告示され、「社会に開かれた教育課程」の理念のもとに、子どもたちの資質・能力を育成することが示された。これらを踏まえ、各学校では、「社会に開かれた教育課程」を具体的に編成していくことが求められている。内山(2016)は、「地域を探究する学びとは、子どもたちが地域のくらしを見つめ、調べ、考え、表現する学習活動を通して地域との関わりを深め、自己や他者の人間性に目覚めながら生き方を追求する学びである」¹⁾と述べている。

地域学習は、その地域に住む児童に身に付けさせたい資質・能力を育て、地域参画の基礎を養うことができると考えられる。地域学習を見直し、改善することは、新学習指導要領の趣旨にそった教育課程を編成することにつながるのではないかと考える。そこで、本研究では、実習校で取り組まれている「キッズマート学習」に関わり、成果や課題をまとめながら改善を図り、児童が生き生きと取り組み、資質・能力を伸ばす地域学習をどのように単元デザインしていけばよいかについて提案する。

2. 研究内容

2.1 実習校の地域素材と地域学習の意義

校区をフィールドワークすると、多くの地域素材が見つかる。地域学習は、実際に出かけて五感を働かせて調べ、地域の人と交流し、考え、表現することで、児童の資質・能力を育むことができる。地域の人と共にプロジェクトに取り組むキッズマート学習は、児童の思考力・判断力・表現力、地域の一員としての自覚等を高めさせると考えられる。

2.2 昨年度のキッズマート学習について

児童の学習の様子を観察し、ワークシートや児童の地域に対する実態調査等を分析、教員や地域の人へのヒアリングを行いながらキッズマート学習の成果と課題をまとめた。

成果としては、①販売に関わる社会事象を身近で具体的なものとして捉えることがで

き、生き生きと活動できた、②地域の人と関わることで、様々な表現活動に取り組めた、③地域に対する興味・関心が高まった等があげられた。また、課題としては、①社会科で学習したこととキッズマート学習がうまくつながらず、キッズマート学習がイベント化していた、②児童のアイデアを生かす場面が少なかった、③売り上げ個数と売り上げ代金が合わなかった等があげられた。

2.3 キッズマート学習についての改善策

本年度のキッズマート学習にむけての改善策として、①教員と地域の人と、学習の目標や児童に育成したい資質・能力等について話し合うこと、②観察・調査活動、インタビュー活動を導入すること、③児童のワークシートやちらし、新聞、キッズマート開催当日の評価基準をつくること、④算数科で代金の計算練習をするなど他教科との関連を考えること、⑤関連資料を引き継ぎ、保管することを提案した。管理職及び担当教員の方々にご指導、ご助言をいただきながら、改善策を取り入れたキッズマート学習を実践した。

3. 結果と考察

3.1 本年度のキッズマート学習について

教員と地域の人との話し合いで、学習の目標や育てたい資質・能力について共有し、教員も学習に見通しをもつことができた。また、児童は、観察・調査活動、インタビュー活動に意欲的に取り組み、調べたことをもとに「社会的事象の見方・考え方」を働かせ、学習を深めることができた。また、店の人の思いや願いを知り、プロジェクトに地域の人と共に取り組むことで、販売の仕事に対する理解を深めたり、地域の一員としての意識を高めたりすることができた。一方、代金の計算が合わず、計算練習や電卓の使い方についても、さらに習熟が必要であることが明らかになった。

3.2 地域学習の単元デザインに向けて

地域学習を児童、教員、地域の人にとって有意義なものにするためには、学校行事や学年行事と調整しながら、教科横断的な視点をもつことや、問題解決学習の中に、「見方・考え方を働かせる場面」「児童が選択・決定できる場面」を取り入れることが重要になってくる。さらに、学習に関する資料を保管し、改善し続けることが求められる。

4. おわりに

地域の人と協働して取り組む地域学習を一回限りではなく、繰り返し行うことで、さらに児童の資質・能力が育ち、地域の一員としての自覚も高まっていくと考えられる。普段から、児童や教員が、地域の人と交流し、協働できる関係を築くことが大切である。

また、同じ地域素材であっても、取り組む学年が違えば、育てたい資質・能力や内容が変わってくる。学校全体で、地域学習の教材開発や構想・計画をすすめていきたい。